

Title	大学組織における学生の自我同一性確立過程：総合的継時分析にむけての覚え書き
Sub Title	A longitudinal investigation of the assimilation process of students into college lives : a progress report
Author	南, 隆男(Minami, Takao) 若林, 満(Wakabayashi, Mitsuru) 西河, 正行(Nishikawa, Masayuki) 小林, ポオル(Kobayashi, Paul)
Publisher	三田哲學會
Publication year	1980
Jtitle	哲學 No.71 (1980. 3) ,p.97- 162
JaLC DOI	
Abstract	The developmental process of newly-entered college students was monitored over the four year period (from the entry point to the point of graduation), utilizing written questionnaires and personal interview. Toward understanding socio-psychological mechanisms whereby the student comes to assimilate into and progresses the college life, longitudinal analyses are to be performed over the four year data accumulated. As the first step, information collected through the questionnaire was subjected to a factor analysis and reduced into a manageable size of data. Homogeneity reliabilities and test-retest reliabilities (stability over time) of the factor-analytically derived scales are reported.
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000071-0097">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000071-0097</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 大学組織における 学生の自我同一性確立過程

——総合的継時分析にむけての覚え書き<sup>1</sup>——

南隆男<sup>2</sup>・若林満<sup>3</sup>・西河正行<sup>4</sup>・小林ポオル<sup>5</sup>

## A Longitudinal Investigation of the Assimilation Process of Students into College Lives: A Progress Report

*Takao Minami, Mitsuru Wakabayashi,  
Masayuki Nishikawa, and Paul Kobayashi*

The developmental process of newly-entered college students was monitored over the four year period (from the entry point to the point of graduation), utilizing written questionnaires and personal interview.

Toward understanding socio-psychological mechanisms whereby the student comes to assimilate into and progresses the college life, longitudinal analyses are to be performed over the four year data accumulated. As the first step, information collected through the questionnaire was subjected to a factor analysis and reduced into a manageable size of data. Homogeneity reliabilities and test-retest reliabilities (stability over time) of the factor-analytically derived scales are reported.

1. 本稿に中間報告をする「研究プロジェクト」は、その企図・推進にあたって、つぎの機関より援助をうけた。記して感謝の意を表します。慶応義塾大学福沢諭吉記念学事振興基金(1974年および1977年)・慶応義塾大学産業研究所(1974年～1977年)・イリノイ大学労働産業関係研究所(1974年～1978年)・イリノイ大学大学院研究委員会(1976年および1977年)。また、本稿に報告した「資料」の整理にあたっては、慶応義塾大学文学部社会学専攻、吉田三津子、下田玲子、日野聡の三君に多大な協力をいただいた。記して感謝申しあげる次第です。
2. 慶応義塾大学文学部助教授(社会心理学/組織心理学)。
3. 名古屋大学教育学部助教授(組織心理学/社会心理学)。
4. 慶応義塾大学大学院社会学研究科修士課程(社会心理学)。
5. 慶応義塾大学文学部助手(教理心理学/実験心理学)。

[ 0 ]

本稿は、『大学組織における学生の〈自我同一性確立過程〉の長期的追跡研究』とわたしたちが呼ぶところの研究プロジェクトの中間報告である。このプロジェクトをとおして、わたしたちが自らに課している研究目標は、表1にかかげた4つの「質問」(research questions)に答えることである。すなわち、すでに一定の価値観や行動様式をたずさえて大学に入学してきた学生の一人ひとり、当該大学の生活に適応し同化をつづけ、やがてそのひと固有の新しい行動パターンを再編・確立していく一連のプロセスを理解しようと望むのである。

表 1. 研究プロジェクトで探索すべき「質問」

- 
1. 学生(新入学生)の各人は、どのような「過程」をたどって、それぞれが現にしているような仕方で、行動するようになっていくのか?
  2. その過程を特徴づけ規定していく「決定的な出来事」には、どのようなものがあるのか?
  3. 学生の各人は、その決定的な出来事のそれぞれによって、どのように「影響」されていくのか?
  4. 学生各人の大学生活のありようは、それぞれの「卒業後のキャリア」の展開と、どのような関連をもっていくのか?
- 

そのため、わたしたちは、「慶応義塾大学」をフィールドに、そこに入学してきた「新入塾生」たちの行動のありようを、とりあえずかれらが卒業するまで、追跡し観察することを企図した。1974年4月のことであった。既存の研究領域にてらせば、このわたしたちのこころみは、個人の「組織への同化過程」(organizational assimilation process)、ないしは、「成人の社会化過程」(adult socialization process)、あるいは、個人の「キャリア発達過程」(career development process)の一特殊研究として位置づけることができるであろう。

## 〔1〕

必要な資料を収集していくにあたって、わたしたちは、つぎのような「戦略」(research strategy)を考えた。フィールドとしての〈慶応義塾大学組織〉のなかから、わたしたちはまず、“理工系キャリア”発達のエージェントの代表として〈工学部〉を選んだ。これに対比させるかたちで“文科系キャリア”発達のエージェントの代表として〈経済学部〉を選定した。以上に、“不分明なキャリア”発達のエージェントの様相をみせつつある〈文学部〉をつけくわえた。これら3学部の(1974年度)新入生のうちから、無作為抽出により、それぞれ200名を選び、「追跡観察の対象者」(panel)を構築した。

ここで注意を喚起したいのは、わたしたちは、慶応義塾大学に入学してきた“塾生一般”の縮図をもとめる方向で、追跡観察の対象をパネル化したのではない、ということである。わたしたちは、慶応義塾大学という「教育組織」(educational system)のなかから、3つの異なる(であろう)「機能的単位」(functional subunit)を意図的に選定し、それぞれの単位(学部)に新しく参入してきた“塾生”のランダム・サンプル化を図ったのである。このことは、「大学組織に新しく参入してきた学生の行動の展開と発達のプロセスを追跡し観察し、そのメカニズムを分析する」という目的を共有した3つの個別的研究が同時に作動している、ということの意味する。

## 〔2〕

「追跡観察」(repeated monitoring)は、表2に示したごとく、パネルとなった新入塾生が入学2ヶ月目を迎えた1974年の6月をかわきりに、現在までのところ、都合5回実施された。1974年6月時点での観察( $T^0$ )は、問題とすべき側面と事項の発掘、および観察と測定法の検討とを主目

大学組織における学生の自我同一性確立過程

的とした予備的な観察であった。このため、表3に示したごとく、パネルの新入塾生以外に、そのときすでに2年生、3年生、4年生となっていた塾生をも、工学部、経済学部、文学部の各学部から各学年それぞれ100名ずつ無作為抽出し、観察の対象にくわえた。

表2. 「追跡観察」のスケジュール

追跡スケジュール	観察予定 タイミング	実際の観 察時点	追跡観察の対象者			
			1974年度 入学の新 入生	1974年 時での 2年生	1974年 時での 3年生	1974年 時での 4年生
T <sup>0</sup> (予備観察)	入学直後	1974年6月 ～7月	×	×	×	×
T <sup>1</sup> (本観察第1回)	入学後1年 経過時	1975年1月 ～2月	×			
T <sup>2</sup> (本観察第2回)	入学後2年 経過時	1976年1月 ～2月	×			
T <sup>3</sup> (本観察第3回)	入学後3年 経過時	1977年1月 ～2月	×			
T <sup>4</sup> (本観察第4回)	卒業直前	1978年1月 ～2月	×			
T <sup>5</sup> (関連観察)	卒業後(入社 後)3年経過時	(1981年2 月を予定)	P			

- (注) 1. ×印は、観察が実施され、「質問紙」「個人面接」などにより、資料が収集されたことを意味する。  
2. P印は、現段階で予定中の「追跡観察」であることを意味する。

表3. 「予備観察」時におけるサンプリング

観察の対象者	フィールド大学組織での機能的単位		
	工学部	経済学部	文学部
1974年度入学の新入生	200人	200人	200人
1974年時での2年生	100人	100人	100人
1974年時での3年生	100人	100人	100人
1974年時での4年生	100人	100人	100人

(注) 観察の対象者は、各学部各学年ごとに、それぞれ無作為に抽出された。

この予備観察から得られた資料にもとづいて、ひとつの「横断的分析」(cross sectional analysis at one point in time) がなされた。その結果は、南ほか (1977), および Wakabayashi, *et al.* (1977) に詳しく報告されている。

### [ 3 ]

資料の収集は、主として、「質問紙」(written questionnaire) と「個人面接」(listening through interview) をとおしておこなわれた。特定観察時点のそれぞれで、まず、質問紙がパネルの手もとに郵送される。一定期間 (おおよそ1ヶ月) 内に、わたしたちの研究室にそれがおくりかえされてくる。しかるのち、わたしたちの研究室あるいは大学ちかくの喫茶店などで、一部のパネルと個人面接が実施された。面接では、質問紙でたずねた事項の適否、たずねかたの妥当性、つぎの追跡観察に質問紙に新しく組みいれるべき側面などが検討・吟味された。

こういう手続きをくりかえして、本観察の第1回 ( $T^1$ : 1975年1月~2月) から第4回 ( $T^4$ : 1978年1月~2月) のすべてにわたって資料を入手しえたパネルの数は、各学部、おおよそ110名内外であった。各学部110名といえば、オリジナル・サンプル (各学部200名) の50%強である。4年にわたる追跡観察のあいだには、留年する学生、そのほか病欠者や退学者など、サンプルの“止むをえざるドロップ・アウト”は必至である。このことを考えれば、以上の“歩留まり”は、分析の精度を確保するうえからはおおいに満足すべきもの、とわたしたちは考えている。実際、この種の研究 (1年以上にわたる継時的<sup>みな</sup>研究) では例外的に高い回収率と評価してよいであろう。

以上の「有効サンプル」(effective sample) から、工学部と経済学部については、さらに“女子学生”のサンプルがのぞかれた。とりあえずは「変動要因」(sources of variation) をすくなくして分析結果の解釈を容

易ならしめよう、という戦略的配慮からである。のぞかれた女子学生パネルは、数にして、両学部とも15程度であった。

結果的に、以降の諸統計的分析にむけての「利用サンプル」(usable sample)が、表4にしめすかたちで整備された。

表4. 総合的継時分析のための「利用サンプル」

出自 (エントリー・ポジション)	工学部(N=100)		経済学部(N=88)		文学部(N=86)	
	男 (n=100)	女 (n=0)	男 (n=88)	女 (n=0)	男 (n=30)	女 (n=56)
塾内進学者	22	—	25	—	2	8
推薦入学者	23	—	×	×	×	×
受験(現役)入学者	28	—	30	—	6	37
受験(浪人)入学者	27	—	33	—	22	11

- (注) 1. 本観察の第1回(T<sup>1</sup>)から第4回(T<sup>4</sup>)のすべてにわたって資料を収集しえた「パネル」をもって「利用サンプル」とする。  
 2. 経済学部および文学部では、「推薦入学」の制度を設けていない(×印)。  
 3. 工学部および経済学部については、分析の都合から、「女子学生」パネルをサンプルから除く(一印)。

[4]

4回の本観察(T<sup>1</sup>~T<sup>4</sup>)をとおして、わたしたちが収集した諸資料を簡略に整理すると表5のごとくである。

これらの「資料」(information gathered)のうち、まず、質問紙をとおして収集されたものについて、さらに整理していきたい。すなわち、個々の「質問項目」(questionnaire item)からの情報を、なんらかの基準にもとづいて統合化していき「扱うる範囲のデータ」(manageable size of data)へと縮小・変換していくこと、これがわたしたちの当面の課題である。

これには、つぎのような戦略がとられた。「文学部」の資料は、男子学生と女子学生からの情報が混在しているため、とりあえずあとまわしにす

る。ちなみに、「工学部」と「経済学部」の資料をいかして、理工系・文科系の両学部（の男子学生）にまたがったかたちでの「意味のある概念」(meaningful concepts)を導き出す。結果的には、「工学部」(100名)と「経済学部」(88名)の利用サンプルを、数のすくない方（つまり「経済学部」）にあわせるかたちで同数にして（つまり、「工学部」の100名からランダムに12名をとりのぞいて）、質問紙のそれぞれの領域ごとに「因子分析」(factor analysis)を適用した。この因子分析には、基本的には、第2回日本観察(T<sup>2</sup>: パネルとなった学生が入学後ほぼ2年目を迎えた)時点での質問紙資料が利用された。

ある領域の質問(表5上での「大学卒業後のキャリア展望」, 「大学生活諸活動と卒業後キャリアとの関連」および「大学生活への同化・適合度」)は、質問の性質上、個々の項目そのままを「単一の指標」(one-item variable)として整理した。因子分析が適用されなかったこれら3領域については、質問の内容と形式を見本1, 見本2, および見本3としてしめす。

## [ 5 ]

以上の、因子分析を援用しての、「個々の質問項目からの情報を意味のあるいくつかのデータへと縮小・変換していく作業」(data reduction)の結果は、表6から表11にわたって整理したごとくである。

厳密に言えば、適用された因子分析は、「主因子法」(principal axis factor analysis)と呼ばれる手法であり、その結果にさらに「ヴァリマックス回転」(varimax rotation)が施された(Harman, 1975)。表6から表11の「因子負荷量」(factor loading)は、このヴァリマックス回転を施したのちの数値である。

なお、以後につづく諸統計的分析にむけての便宜性から、わたしたちは抽出された因子にそれなりの“よび名”を冠した。しかし、現在の段階では、それらはあくまで“便宜的な符牒”と考えらるべきものである。



表 5. 収集された「資料」一覧

収集された資料	予備観察				本 観 察			
	T <sup>0</sup>	T <sup>1</sup>	T <sup>2</sup>	T <sup>3</sup>	T <sup>4</sup>			
	(1974年 6~7月)	(1975年 1~2月)	(1976年 1~2月)	(1977年 1~2月)	(1978年 1~2月)			

●「質問紙」をとおして：

1. 学生イメージ (student image)
  - (1) 塾生一般
  - (2) 自分自身
2. 大学生生活諸活動への  
時間とエネルギーの配分パターン  
(time & energy allocation pattern)
3. 大学生生活上での諸問題 (college-life problems)
  - (1) 経験頻度
  - (2) 生活への障害度
4. 大学卒業後のキャリア展望  
(career perspective upon graduation)
  - (1) 魅力度
  - (2) 選択可能性
5. 大学生生活諸活動と卒業後キャリアとの関連  
(college-life instrumentality)
  - (1) 諸活動の遂行可能性
  - (2) 諸活動の有意味性



見本 1. 「大学卒業後のキャリア展望」

自分の将来についていろいろ想ってみることは、不安なことかも知れませんが同時に楽しいことの一つでもあると思います。そこで、以下に、私たちの「将来の方向や生き方」といったものをいくつかあげてみました。

④ まずはじめに、あなた自身は、現在、以下のそれぞれに対して、どのくらい魅力をお感じになるでしょうか。つまり、「将来自分だったらこうなりたい」「自分としては、出来たら実現してみたい」といった観点から、あなた自身の現在お感じになる魅力の程度をお聞かせ願いたいのです。

⑤ つぎに、それぞれの「方向・生き方」に対して、あなたのお感じになる「実際の実現可能性」はどんなものなのでしょうか。つまり、「魅力は感ずるけれど、実際には、そういう方向にはいかないだろう」「出来たら実現してみたいけれど、そうは世の中甘くはないだろう」といったニュアンスでの、あなた御自身のそれぞれの「方向・生き方」に関する「実際の実現可能性」をお聞かせ願いたいのです。

やり方は、それぞれの項目の右にある7つの選択肢のうちから、あなたのお気持ちにもっとも近いものを一つ選び、その番号を○でかこんでいって下さい。

④

現在の時点において私自身が感じる魅力の度合いは

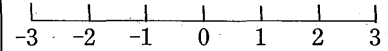
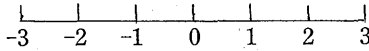
非常に魅力を感じる  
かなり魅力を感じる  
少し魅力を感じる  
どちらでもない  
あまり魅力を感じない  
ほとんど魅力を感じない  
まったく魅力を感じない

⑤

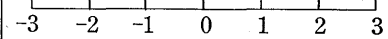
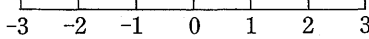
魅力の度合いとは関係なく、私自身がそういう生き方をする実際の可能性は

非常に可能性が高い  
かなり可能性が高い  
すこし可能性が高い  
なんともいえない  
あまり可能性がない  
ほとんど可能性がない  
まったく可能性がない

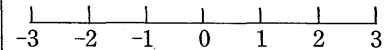
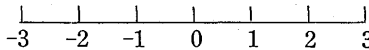
1. 一流大企業に就職し、将来、その組織で指導的立場を確立すること (一流企業就職→エリート社員→社長といった方向)



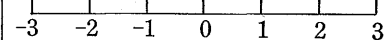
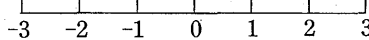
2. 自分のセンスや趣味を洗練し、将来、それで生計を立てていくこと (就職せず→センス・アイデア洗練→自由業・タレントといった方向)



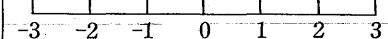
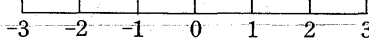
3. 外国に留学し、視野を拡大するなどして、将来、国際的に活躍すること (外国留学→視野拡大→国際人といった方向)



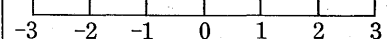
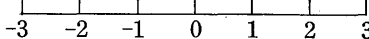
4. とにかく、どこかに就職し、きちんと仕事をやりながら、世間並の生活を設計していくこと (就職→サラリーマン→安定した人生設計といった方向)



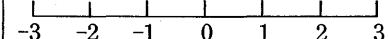
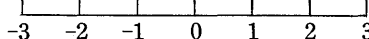
5. 大学院に進み、さらに深く勉強し、将来、専門領域で自分らしい仕事をしていくこと (大学院進学→知識・技能修得→研究者・スペシャリストといった方向)



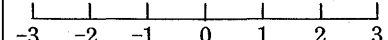
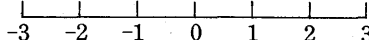
6. 自分の主義・信条にしたがいが、かりにそれが反体制的であったとしても、それを貫いた生活をきりひらいていくこと (主義・信条重視→世の為・人の為→社会運動家といった方向)



7. 家の仕事を引き継ぐか、あるいは、自分で事業を起して、さらにそのビジネスを上げていくこと (家業継承または自営→ビジネス拡張→事業家といった方向)



8. 一流官公庁に入り、将来、国家的な見地からリーダーシップを発揮していくこと (官公庁就職→エリート官僚→政治家といった方向)



(右上へ)

見本 2. 「大学生生活諸活動と卒業後キャリアとの関連」

今度は少し現実的なことに焦点をあわせたいと思います。現在あなたは、慶応大学に在籍し、勉強はもとより、友だちや先生との交流と多くの活動に従事なさっているわけです。ここでは、この「大学在籍中に、いろいろな活動に従事することの意味」といったものについて、すこしばかり御質問したいと存じます。

回答のしかたは、それぞれの項目に対応してある、右はしの7つの選択肢のうちから、あなたの「現在の状況やお気持ち」にもっとも近いもの一つを選び、その番号を○でかこんでいって下さい。

① 以下のそれぞれを本気でやるとしたら、あなたが、それを実際に実現・達成できる「見込み」または「可能性」は

	まったく見込みなし	ほとんど見込みなし	あまり見込みなし	なんともいえない	すこし見込みあり	かなり見込みあり	非常に見込みあり
1. 一生ケンメイ勉強し、「良い成績をおさめる」こと……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
2. クラブ・サークルなどの課外活動に参加し、「上級生や先輩と親しく接する」こと……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
3. 自治会の役割に興味をもち、「そこでの活動に積極的にとりくむ」こと……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
4. クラスなどの同学年の“友だち”をたくさんつくり「充実した交友関係をもつ」こと……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
5. 多くの先生方と知り合いになり、出来れば「個人的にも親しくおつき合いする」こと……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
6. 読書、映画・演劇・音楽鑑賞、旅行などを通して「自分の趣味や内面的世界を豊かにする」こと……………	-3	-2	-1	0	1	2	3

② 以下のそれぞれを実現・達成することの、現在のあなたにとっての、「意味」や「重要性」は

	まったく重要じゃない	ほとんど重要じゃない	あまり重要じゃない	どちらともいえない	すこし重要	かなり重要	非常に重要
1. 一生ケンメイ勉強し、「良い成績をおさめる」こと、は……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
2. クラブ・サークルなどの課外活動に参加し、「上級生や先輩と親しく接する」こと、は……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
3. 自治会の役割に興味をもち、「そこでの活動に積極的にとりくむ」こと、は……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
4. クラスなどの同学年の“友だち”をたくさんつくり「充実した交友関係をもつ」こと、は……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
5. 多くの先生方と知り合いになり、出来れば「個人的にも親しくおつき合いする」こと、は……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
6. 読書、映画・演劇・音楽鑑賞、旅行などを通して、「自分の趣味や内面的世界を豊かにする」こと、は……………	-3	-2	-1	0	1	2	3

③ 以下のそれぞれを実際に実現・達成できたとします。そこで今度は、この「それぞれの実現・達成」が、あなたの希望する、または魅力を感じる「卒業後の将来の方向・生き方」を、あなたが実現・達成していくのに、実際に助けとなってくれる、または役立ってくれる、その度合いは

	まったく役に立たない	ほとんど役に立たない	あまり役に立たない	どちらともいえない	すこし役に立つ	かなり役に立つ	非常に役に立つ
1. 一生ケンメイ勉強し、「良い成績をおさめる」こと、とは……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
2. クラブ・サークルなどの課外活動に参加し、「上級生や先輩と親しく接する」こと、とは……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
3. 自治会の役割に興味をもち、「そこでの活動に積極的にとりくむ」こと、とは……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
4. クラスなどの同学年の“友だち”をたくさんつくり「充実した交友関係をもつ」こと、とは……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
5. 多くの先生方と知り合いになり、出来れば「個人的にも親しくおつき合いする」こと、とは……………	-3	-2	-1	0	1	2	3
6. 読書、映画・演劇・音楽鑑賞、旅行などを通して、「自分の趣味や内面的世界を豊かにする」こと、とは……………	-3	-2	-1	0	1	2	3

見本 3. 「大学生生活への同化・適合度」

以下の質問にお答え下さい。それぞれの項目の右にある7つの選択肢のうちから現在の時点でのあなた自身のお気持ちに  
もっともピッタリするものをお選び、その数字を○でかこんでいって下さい。

1.  1. まったく一体感を感じられない。  
 2. ほとんど一体感を感じられない。  
 3. あまり一体感を感じられない。  
 4. 何ともいえません。  
 5. まあ一体感を感じています。  
 6. かなり一体感を感じています。  
 7. 非常に一体感を感じています。

1. 私は、この大学に ………

1.  1. ぜんぜん慶応の学生らしくないと思う。  
 2. ほとんど慶応の学生らしくないと思う。  
 3. あまり慶応の学生らしくないと思う。  
 4. 慶応の学生らしいとも、らしくないとも思わない。  
 5. 少し慶応の学生らしくなってきたと思う。  
 6. かなり慶応の学生らしくなってきたと思う。  
 7. 非常に慶応の学生らしくなってきたと思う。

2. 現在、私自身は ………

1.  1. こまったことになるので、いつかは転換が必要だと内心  
 思っている。  
 2. 自分の考えている方向とずれてしまいかもしれないが、  
 結果的には、なんとかうまくいくだろうと思う。  
 3. だいたい自分の考えている方向に進めると思う。  
 4. 自分の希望する分野で、十分活躍できると思う。

3. このままの学生生活を  
 続けてゆけば、将来は ………

表 6. 因子分析の結果：「学生イメージ」

(質問教示)：まずはじめに、現在の時点での、あなたの、「塾生一般」および「塾生のひとりとしてのあなた自身」のイメージをお聞きしたいと思います。以下に、20の対になった言葉があります。それらを見て、対になった言葉のあいだにある7つの区切りのうち、あなたのお気持ちに一番びたりするところを選び、その数字を○でかこんでいって下さい。

質問項目 (20項目)	塾 生 一 般						自 分 自 身					
	因子負荷量			共通性 (h <sup>2</sup> )			因子負荷量			共通性 (h <sup>2</sup> )		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
<b>I. 洗 練 性</b>												
17. スマートな—イカサない	-.15	.69	.12	.49	.79	-.27	-.14	.74				
13. あかぬけしない—洗練された	.22	-.67	-.18	.52	-.78	.32	.22	.76				
9. かつこ良い—かつこ悪い	-.09	.72	.10	.54	.75	-.19	-.18	.66				
1. 都会的な—田舎っばい	-.06	.57	-.00	.37	.72	-.25	-.04	.60				
5. ヤボな—ナウな	.15	-.69	-.02	.50	-.71	.29	.08	.59				
<b>II. 積 極 性</b>												
6. 活発な—無気力な	-.51	.21	.00	.36	.19	-.76	-.19	.63				
10. 消極的な—積極的な	.63	-.26	.10	.49	-.09	.74	.17	.56				
2. 主体性のない—主体性のある	.58	-.08	-.24	.39	.11	.55	.27	.42				
18. 特徴のない—個性豊かな	.58	-.37	-.07	.49	-.10	.54	.12	.40				
14. 強い—弱い	-.53	.09	.39	.48	.24	-.52	-.36	.51				
7. ひくつな—おおらかな	.50	-.36	.20	.40	-.24	.49	-.02	.37				

III. 勤 勉 性

16. 勤勉な—怠惰な	-.34	.07	.64	.47	.24	-.26	-.65	.52
4. 不まじめな—まじめな	.30	-.07	-.53	.39	-.12	.26	.58	.45
20. 根気のない—根気のある	.56	.04	-.30	.41	-.24	.29	.51	.40
8. 用心深い—軽卒な	.09	.05	.40	.18	-.06	.05	-.50	.25
(残余項目)								
3. 親切な—不親切な	-.45	.21	.11	.35	.40	-.04	.00	.35
11. すなおな—意地っぱりな	-.27	.16	.08	.26	.16	.06	-.02	.28
12. ダメな—優秀な	.38	-.49	-.44	.57	-.38	.41	.53	.63
15. 思いやりのない—思いやりのある	.52	.01	-.19	.37	-.14	.23	.13	.28
19. とっつきやすい—とっつきにくい	-.27	.30	-.01	.27	.18	-.33	.25	.26
	寄与率 (% variance)	41.6%	39.0%	19.4%	41.6%	39.0%	19.4%	

(注) 質問項目の番号は、「質問紙」上での配列順番に対応する。

表 7. 因子分析の結果：「大学生生活諸活動への時間とエネルギーの配分」

(質問教示)：現在あなたは、あなたのまわりにいる塾生とくらべてみた場合、以下のことがらのためにどのくらい多くの時間やエネルギーを費やしておられるでしょうか。つまり、ここでは、以下のそれぞれに対する、あなた自身の「現在の時点における時間とエネルギーの配分のしかた」といったものをお聞きしたいと思います。

回答のしかたは、以下のそれぞれの項目について、右にある7つの選択肢のうちから、「あなた自身の現実の状況」にもっとも近いものをお一つ選び、その数字を○でかこんでいって下さい。

質 問 項 目 (80項目)	因 子 負 荷 量					共通性 (h <sup>2</sup> )
	I	II	III	IV	V	
<b>I. 「自己確認」活動</b>						
54. 先生に人生上のアドヴァイスをもとめること	.77	-.01	.02	.14	.00	.78
72. 教務部や学生部の人と親しくなること	.75	.18	.05	.12	-.01	.78
18. 先生と個人的に親しくなること	.71	-.03	.14	.05	.24	.85
69. 先生から注目されること	.71	.18	.19	.10	.09	.79
39. 授業で質問すること	.69	.12	.23	.01	.19	.81
50. 学生相談室にいろいろ相談に行くこと	.68	.05	-.06	.02	-.12	.70
22. 自治会の活動に参加すること	.66	.01	-.06	.09	-.10	.62
64. 研究会・ゼミでイニシアチブをとること	.66	.18	.06	.16	.01	.79
38. クラスのなかでリーダーシップを発揮すること	.64	.37	.06	.08	.17	.78
9. 先生と話す機会をつくること	.63	.01	.20	-.03	.12	.79
78. 大学や学部のしくみ、運営のあり方などについて関心を払うこと	.61	.16	.21	.05	.11	.73



58. 塾外のサークルや団体でリーダーシップを発揮すること	.43	.11	-.00	.30	.18	.72
<b>II. 「交友・社交」活動</b>						
25. 塾内の仲間と飲んだり食ったりすること	-.10	.62	-.12	.19	.08	.71
13. クラスの仲間と親しくなること	-.05	.60	.00	-.07	.25	.71
60. クラスの皆から好かれること	.24	.59	.19	.13	.15	.80
8. クラスの行事（コンパなど）に参加すること	.18	.54	.01	-.02	-.10	.65
40. クラスの仲間から信頼を得ること	.30	.52	.21	.16	.12	.74
10. 早慶戦や三田祭などの行事に参加すること	.18	.50	.08	.12	-.07	.61
76. 社交性を高めること	.05	.49	.07	.28	.35	.68
41. 塾生らしいセンスを身につけること	.30	.47	.14	.33	.07	.74
20. 塾内で良い友人をみつけること	.08	.45	.14	.29	.36	.73
<b>III. 「勉学・学習」活動</b>						
2. 「語学」の授業に出席すること	-.08	.17	.66	-.01	-.08	.70
3. 「専門科目」の授業に出席すること	-.06	-.02	.64	.04	.07	.75
42. 良い成績をとること	.05	.14	.61	.35	-.08	.78
4. 「一般教養」の授業に出席すること	.12	-.19	.58	.01	.11	.71
27. 「語学」の授業の予習・復習をすること	.31	-.04	.58	.00	-.00	.71
56. 授業のノートの整理をすること	.22	.25	.53	.00	.11	.70
16. 図書館の本や資料を利用すること	.24	-.09	.44	-.07	.00	.75
<b>IV. 「クラブ・課外」活動</b>						
5. クラブの活動に参加すること	-.00	.18	-.00	.74	-.02	.79
6. 上級生と親しくなること	.08	.26	-.05	.69	.05	.83
14. OBや先輩と知り合いになること	.22	.27	-.10	.64	.13	.82

質問項目 (80項目)	因子負荷量					共通性 (h <sup>2</sup> )
	I	II	III	IV	V	
51. クラブ内でリーダーシップをとること	.34	.21	.04	.56	.09	.73
63. 上級生や先輩に授業の内容や先生の評判などについて聞くこと	.13	.37	.26	.47	.07	.74
23. 身体をきたえなこと	.01	-.08	-.01	.44	.14	.61
<b>V. 「人格陶冶」活動</b>						
59. 自分の趣味の領域を拡大させること	.00	.15	.15	.16	.69	.70
65. 自分を幅広くいろいろな事に精通させること	.09	.15	.12	.18	.65	.68
37. 自分を人間的に成長させること	.10	.09	.10	.35	.61	.73
21. 自分の個性をのばすこと	.12	-.03	.06	.39	.60	.70
17. 文学書や趣味・教養の本を読むこと	-.05	-.15	-.08	-.15	.53	.55
49. 政治・経済などの社会の動きに関心を払うこと	.22	.13	-.12	-.15	.48	.72
24. 自分の専門知識を深めること	.20	-.10	.06	.16	.44	.62
<b>(残余項目)</b>						
1. 旅行をすること	.03	.18	-.10	.08	.16	.54
7. 1人でテレビを見ること	-.04	.09	.12	-.06	-.14	.51
11. 図書館で勉強すること	.24	.02	.40	.02	.00	.71
12. マージャンをすること	.05	.42	-.26	-.11	-.07	.57
15. 研究会やゼミの活動に参加すること	.49	.15	-.02	.15	.19	.75
19. 塾内のサークルや団体の活動に参加すること	.32	-.05	.00	.34	.29	.69
26. バイトをすること	.11	.20	.00	-.16	.17	.48

28.	家の仕事を手伝うこと	.27	-.01	.20	-.10	.11	.53
29.	塾外の友人とつき合うこと	.01	.16	-.01	.05	.41	.65
30.	一人気のむくままに時間をすごすこと	-.18	.04	.09	-.16	.33	.55
31.	「専門科目」の授業の準備をすること	.36	.02	.45	-.09	.00	.70
32.	ほかの大学の学生と知り合いになること	.21	.20	.01	.27	.46	.72
33.	家族の人と話したり両親に手紙をかくこと	.26	-.16	.24	.10	.13	.57
34.	デートをすること	.25	.33	-.18	.12	.09	.63
35.	就職に関する準備をすること	.46	.19	.03	.17	.07	.63
36.	服装や身のまわりのことに気を配ること	.09	.37	.27	.35	.05	.66
43.	勉強と遊びを両立させること	.10	.25	.46	.45	-.10	.75
44.	授業で興味を持ったことなどをさらに詳しく調べてみることにすること	.46	.10	.46	.11	.24	.75
45.	映画・演劇・音楽などを鑑賞すること	-.01	.17	.25	.08	.36	.64
46.	喫茶店で時間を過ごすこと	.01	.48	-.21	.10	.12	.54
47.	新聞や雑誌に眼をとおすこと	.06	.23	.06	-.23	.52	.69
48.	授業でわからなかった点などを先生にききにいくこと	.62	.04	.33	.02	.06	.78
52.	友だちと共同で予習や試験勉強をすること	.32	.32	.18	.01	.13	.53
53.	学外にある慶応の施設（立科山荘など）を利用すること	.57	.06	-.13	.23	-.06	.60
55.	友だちに自分の悩みをきいてもらうこと	.18	.38	.05	.19	.19	.69
57.	慶応の先生方の出版した本や論文を読むこと	.55	.05	.14	.01	.28	.70
61.	自分の専門分野の雑誌やジャーナルに眼をとおすこと	.37	.08	-.17	.01	.42	.68
62.	生協や学生食堂を利用すること	-.11	.42	.32	.12	.10	.62
66.	海外（外国）に行く可能性を高めること	.36	.17	.18	.35	.20	.74
67.	科目のとり方や試験についての情報を集めること	-.04	.43	.35	.18	.10	.71

質問項目 (80項目)	因子負荷量					共通性 (h <sup>2</sup> )
	I	II	III	IV	V	
68. 学則や学部の規則を知ること	.42	.36	.21	.06	.02	.69
70. 自分の現状を大きく変えること	.25	.10	.07	.15	.39	.60
71. 外国語 (英会話など) を話せるようにすること	.31	.01	.21	.37	.24	.74
73. 両親の期待に答えること	.07	.16	.48	.41	.08	.77
74. まわりの女子 (男子) 学生から注目されること	.39	.40	.15	.32	-.09	.75
75. 塾内の友だちと「人生」や「社会」について議論すること	.29	.26	.03	.20	.35	.76
77. 社交性を高めること	.34	.24	.31	.42	.18	.77
79. まわりの人に「自分」を理解させること	.22	.39	.29	.34	.17	.67
80. 「一般教養科目」の予習・復習をすること	.60	-.06	.42	.01	.06	.78
寄与率 (% variance)	32.1%	18.6%	16.9%	16.3%	16.1%	

(注) 質問項目の番号は、「質問紙」上での配列順番に対応する

表 8. 因子分析の結果：「大学生生活上での諸問題」

(質問教示)：私たちの学生生活の中には、考えてみれば実にさまざまな出来ごとが含まれていると思います。そのような出来ごとの中から、どちらかと言えば「問題」と思われるものを以下にリストアップしてみました。そこでお聞きしたいのは、

④ 慶応大学のなかで、あなた自身は現在、以下のそれぞれの出来ごとを、どのくらい身近かに、**現実**に経験しておられるでしょうか。左側の回答欄にお答え下さい。

⑤ つぎに、それぞれの出来ごとは、あなた自身の円滑な学生生活の実現にとって、**どの程度の障害を、実際にもたらしているのでしょうか**。右側の回答欄にお答え下さい。

回答のしかたは、それぞれの項目の右にある7つの選択肢のうちから、現在の時点での、あくまでもあなた自身（ほかの人の状況や一般的に言われていることではなくて）の「**現実の経験**」や「**実際の障害**」にもっとも近いもの一つを選び、その数字を○でかこんでいって下さい。

(115)

質 問 項 目 (35項目)	頻 度			障 害 度				
	因子負荷量			因子負荷量				
	I	II	III	I	II	III		
7. 大学当局に新しいものを取り入れる柔軟さや決断がない	.24	.43	.11	.37	.70	.19	.10	.55
29. 熱意のない先生が多い	.68	.16	-.06	.54	.64	.24	.10	.62
3. 大学の厚生施設(食堂やスポーツ施設など)が整っていない	.35	.44	-.25	.52	.54	.21	.03	.55
15. カリキュラムが充実していない	.50	.38	.00	.48	.54	.16	.04	.50

I. 「大学システム」の不備・不充実

質問項目 (35項目)	頻度			障害度				
	因子負荷量			因子負荷量				
	I	II	III	I	II	III		
	共通性 (h <sup>2</sup> )			共通性 (h <sup>2</sup> )				
18. 都会での生活費が高すぎる	.10	.42	-.10	.45	.53	-.08	.18	.45
26. 授業料が高い	.33	.47	.05	.51	.51	-.02	.30	.51
22. 皆の溜り場がない	.01	.42	.01	.30	.48	.18	-.00	.43
31. 大学の勉学に関する設備が整っていない	.33	.47	-.07	.49	.47	.20	.12	.46
<b>II. 「対人的ネットワーク」からの乖離</b>								
12. 勉強する気のないクラスメートが多い	.28	.04	.17	.33	.08	.68	.06	.54
14. 大学が都会にあるので何となく落着かない	-.14	.23	.16	.31	.09	.66	-.07	.49
13. 自分は慶応にむいていないと思う	.40	.15	.30	.50	.07	.58	.24	.49
4. 塾内出身者が自分たちだけで固りすぎている	.06	.32	.21	.28	.12	.56	-.00	.39
6. クラスでのつきあいが表面的で冷たい	.11	.05	.28	.29	.28	.49	.18	.50
25. 皆が派手でつきあいかねる	.27	.24	.23	.39	.28	.47	.26	.45
<b>III. 「大学生生活」の空疎感</b>								
32. 何となく生活にはりがない	.17	.11	.65	.56	.04	.19	.74	.63
27. 自分が何となく時間を浪費している	.30	-.15	.63	.53	-.04	.19	.69	.58
23. 自分の学生生活に目標がない	.17	.08	.58	.45	.06	.16	.64	.51
35. 将来が不安で仕方がない	.26	.21	.30	.38	.23	.11	.62	.51
19. 勉強していることが将来あまり役立ちそうもない	.49	.10	.19	.38	.34	.16	.56	.51
24. 入ってきた学部があまり気に入らない	.51	.09	.18	.43	.11	.19	.54	.51

(残余項目)

1.	大学への通学時間がかかりすぎる	.09	.00	.10	.20	.12	-.03	.30	.28
2.	つまらない授業が多い	.54	.05	.06	.41	.40	.04	.37	.55
5.	暇がありすぎる	-.21	-.12	.49	.46	.02	.36	.20	.32
8.	先生が勉強の仕方を適切に指示してくれない	.16	.50	.31	.45	.35	.36	.10	.38
9.	大学が大きすぎて何をしようかわからない	.13	.34	.51	.48	.33	.49	.25	.54
10.	授業で忙しすぎて自分の時間がもてない	.02	.49	-.07	.40	.30	.25	.30	.39
11.	教務部や学生部など、学生の接する窓口が親切さに欠ける	.18	.43	.12	.44	.41	.50	.16	.62
16.	自分の悩みや相談にのってくれる友人が塾内にいない	.04	.36	.20	.30	.40	.32	.20	.44
17.	先生と接触する機会が少ない	.22	.38	.09	.39	.47	.25	.12	.46
20.	異性の塾生と気楽に話せない	-.02	.29	.42	.39	.15	.38	.32	.47
21.	慶応がアカデミックな雰囲気欠けている	.42	.28	.01	.39	.39	.28	.17	.46
28.	慶応とは名ばかりで実質がない	.68	.14	.14	.53	.40	.21	.46	.62
30.	クラブ活動が面白くない	.08	.35	.12	.31	.33	.40	.28	.47
33.	大学で自分の望む専門知識を学べる機会が少ない	.42	.27	.12	.48	.45	.04	.34	.52
34.	学生の自治活動が活発でない	.16	.23	.14	.26	.25	.37	.11	.42
		37.6%	34.1%	28.3%		37.2%	32.0%	30.8%	

(注) 質問項目の番号は、「質問紙」上での配列順番に対応する。

表 9. 因子分析の結果：「職業生活志向性」

(質問教示)：以下に、慶応大学の学生より集めた、さまざまな意見があります。それぞれの意見に、あなた御自身としては、どの程度賛同されるでしょうか。ここでは、それをお聞きしたいと思います。  
 回答のしかたは、それぞれの項目の右にある7つの選択肢のうちから、「現在のあなたのお気持」にもっとも近いものを一つ選び、その番号を○でかこんでいって下さい。

質 問 項 目 (28項目)	因子負荷量			共通性 ( $h^2$ )
	I	II	III	
<b>I. 「組織内上昇・安定」志向</b>				
1. まず、会社組織を信頼し、与えられた仕事で最善をつくす	.65	-.11	-.04	.47
23. 企業や組織の中で生きていくからには、昇進・出世しなければ意味がない	.61	.23	-.21	.52
8. 目新しいことをするよりは、とりあえず言われたことをきちんとやるべきだ	.57	.04	.11	.37
25. 「寄らば大樹の陰」というように、大組織で働く方が望ましいことは明らかだ	.57	-.01	.32	.42
3. 大企業・大組織に入ってこそ、はじめて私の考えている満足のいく仕事ができる	.55	-.15	-.09	.42
14. 与えられた仕事をまじめにやっていたら、「良い仕事」が必ずまわってくる	.55	-.08	.09	.43
<b>II. 「自己実現・自律」志向</b>				
18. 自分の知識やアイデアにもとづいて、仕事のやり方をどんどん変えていく	-.06	.75	-.12	.57



21. 大組織に入れば一生こきかわられるだけだ。それよりも中小規模の組織で、自分の力を試してみるのが面白い .18 .45
15. 組織や上司の命ずることはかならずしも正しくない。自分の仕事は自分の判断にもとづいて遂行したい .06 .43
26. 自分のことは自分でできり開いていく。仕事が面白くなかったら、当然、転職を考える .04 .38
7. 会社や組織の知名度・規模など問題にしない。「将来、自分が何ができるか」ということが最大の問題だ .08 .41
17. 組織内では、慶応卒の肩がきなど大した役にはたたない .07 .37

### III. 「私生活優先・自由」志向

5. 組織、特に企業で働くことは結局、自分や組織の利益のためであって、社会のためにはなんら役立たない。場合によっては有書ですらある .57 .44
9. 私が働くのは食っていただくだけの金を稼ぐことであり、それ以外のことははたいして関心がない .11 -.09 .43 .27
4. "大卒"の肩がきなど低下する一方なので、これからは出世などは望めそうもない .27 .10 .40 .41
11. 組織に入れば、冷えきった人間関係と、歯車としての役割の中で生きていかねばならない .08 .17 .37 .36
16. 昇進や出世のことはほどほどにして、レジャー、趣味、家庭生活の充実に力をそぐ .03 .22 .35 .31
24. 仕事は他人の迷惑にならない程度にやればよい .06 -.04 .33 .32

質 問 項 目 (28項目)	因子負荷量			共通性 (h <sup>2</sup> )
	I	II	III	
(残余項目)				
2. 停年まで同じ会社で働き続けるなどもっとも愚かなことだ	-.38	.12	.28	.36
6. "日本的" 人間関係をやかくいわれない実力主義の職場で働きたい	-.02	.32	-.12	.20
10. 同期の人、場合によっては先輩よりも常に一步先をいく仕事を私はする	.26	.33	-.38	.39
12. 慶応卒の肩がきと私の実力をもつてすれば、必ず人並み以上の事はできる	.44	.04	-.38	.45
13. 今の日本の社会では最初の就職先でその人の一生がほばままる	.23	-.12	.02	.29
19. 一応世間で恥しくない職場ならどこでもよい、あとはわたしの努力と実力しただい	.30	.37	.13	.33
20. "仕事の鬼" といわれるような上司や同僚のいる職場で仕事がしたい	.31	.47	-.21	.52
22. わたしの考えでいることを理解してくれ、わたしの感情にこまかく気がつかってくれる人のいる職場で仕事がしたい	.16	.29	.20	.30
27. 暖かい人間関係を保つことの方が良い仕事をする以上に大切なことだ	.08	.42	.20	.38
28. "やり手" といわれるような上役のもとで仕事をしてみたい	.56	.48	-.30	.63
寄 与 率 (% variance)	39.0%	38.6%	22.4%	

(注) 質問項目の番号は、「質問紙」上での配列順番に対応する。

表 10. 因子分析の結果：「社会的価値態度」

(質問教示)：以下にいろいろな意見が書いてあります。それぞれの意見にたいして、あなた御自身は、どの程度賛同さ  
れますか？  
右にあげた5つの選択肢のうちから、あなたの気持ちにもっとも近いもの一つを選んで、その番号を○でかこんでいっ  
て下さい。

質問項目 (41項目)	因子負荷量			共通性 (h <sup>2</sup> )
	I	II	III	
<b>I. 「伝統的性役割」の維持</b>				
22. 夫は外に出て働き、妻は家庭で家事をすという形が夫婦にとって望ましい	.76	.19	-.01	.69
23. 結婚した後でも、女性は積極的に外へ出て働く様にすべきである	-.68	-.11	.22	.61
21. 男が炊事、洗濯、掃除など家事労働をすることは好ましくない	.62	.07	.09	.51
25. 女性にも男性と同じ仕事を与えるべきである	-.60	-.11	.23	.52
24. 子供を育てることは母親の仕事で他人にまかせべきでない	.48	.31	.01	.48
27. 物事を考えたりまとめたりする能力には生まれつき男女の差がある	.39	-.10	.00	.28
<b>II. 「社会的秩序」への従属</b>				
10. 人が幸福になるためには秩序正しい社会をつくる必要がある	.05	.65	.00	.51
13. 人々が調和のとれた生活をすするためには、社会的規則が不可欠である	-.01	.58	-.04	.44
9. 人が幸福になるためには他人と仲良く暮す必要がある	.16	.57	.07	.48
18. 西欧の文化をとり入れるよりも自国の文化の維持、発展を重視すべきである	-.03	.48	.10	.45
7. 人が幸福になるためには、経済的に豊かになる必要がある	.01	.48	-.07	.36
16. 人は自然を征服するよりも、自然に従うべきである	.02	.42	-.09	.40

質 問 項 目 (41項目)	因子負荷量			共通性 (h <sup>2</sup> )
	I	II	III	
<b>III. 「上下関係」の重視</b>				
29. たとえ成人した後でも、親の方が経済的に豊かであれば、子供を援助するのは当然である	-.11	.05	-.59	.58
28. 成人後、親から経済的援助を受けるのは恥ずべき行為である	-.01	.05	.56	.54
31. 子供が一定の年齢に達したら、親は子が自活するように仕向けるべきである	-.04	.32	.50	.44
36. 若い人がはやいうちから社会的責任のある地位につくのは、社会秩序を保つ上で好ましくない	.07	-.00	-.49	.37
39. 上司の方針には、たとえ個人的に不賛成でも従うべきである	-.06	.15	-.47	.51
30. 現在の社会では、一般に、親は子を甘やかしている	-.03	.09	.41	.43
20. たとえ非合理ではあっても社会的慣習には従うべきである	.23	.10	-.40	.47
<b>(残余項目)</b>				
1. 学者や芸術家などよりも実際の生活に必要なものを作っている人の方が社会的価値は高い	.16	-.00	.09	.28
2. 社会のために尽すより自分の好きなように暮す方が大切である	.12	.08	-.16	.42
3. 金持になるより有名になることの方が重要である	.17	-.18	.05	.37
4. 名譽はあっても収入の少い仕事より、名譽はなくとも収入の多い仕事を選ぶ方が望ましい	-.20	.16	-.15	.39
5. 自分が正しいと思うことは多少他人に迷惑がかかってもはっきりと言うべきだ	-.10	.17	.29	.33
6. 将来楽をするためにアクセク働くよりも、その日を楽しく暮す方が良	-.13	.13	-.17	.32



表 11. 因子分析の結果：「大学生生活への満足度」

(質問教示)：あなたは現在、以下のそれぞれの側面に対して、どのようなお気持ちを抱いておられるでしょうか。それぞれの項目の右にある7つの選択肢のうちから、現時点でのあなた自身のお気持ちにもっとも近いものをも一つ選び、その数字を○でかこんで下さい。

質 問 項 目 (15項目)	因子負荷量		共通性 ( $h^2$ )
	I	II	
<b>I. 研究・教育システム</b>			
9. 自分の学問上での進歩の度合い	.58	.20	.41
3. 語学や専門の講義の内容	.56	.09	.34
6. 先生の学生に対するあり方・かかわり方	.54	.19	.36
2. 自分の学業成績	.52	.08	.33
8. 先生との個人的接触の機会	.51	.13	.35
12. 自分のいる学部・学科のカリキュラムのあり方・構成	.51	.26	.39
<b>II. 対人・交友関係</b>			
13. 「人間関係」を深める機会	.23	.68	.48
14. 「慶応大学」というもの一般	.29	.55	.41
1. 塾内での友人関係	.04	.52	.28
4. クラブ・サークルなどでの課外活動	.12	.51	.29
7. 「社会人」として成長するための経験を得る機会	.32	.49	.38
<b>(残余項目)</b>			
5. 自分の所属している学部や学科そのもの	.44	.28	.34

10. 塾の食堂などの厚生施設のあり方・内容	.39	.15	.31
11. 教務・学生部の学生に対するあり方・態度	.49	.29	.37
15. 自分の「現在の学生生活」全体	.46	.48	.48
寄 与 率 (% variance)	56.7%	43.3%	

(注) 質問項目の番号は、「質問紙」上での配列順番に対応する。

[ 6 ]

以降の諸統計的分析には、この「因子分析をとおして指標化された尺度」(factor-analytically derived scales) が利用される。表 12 に、これら因子尺度の「信頼性」(reliability) がしめされる。いずれの尺度も、2項目以上の質問によって合成されているわけで、逆のみかたをすれば、尺度をかたちづくっている個々の質問は相互に一定水準以上の関連をもっているはずである。この相互関連の度合いをしめす指標が信頼性であり、表 12 にしめされるそれは、「コロンバックのアルファ係数」(Cronbach's  $\alpha$  coefficient) によって算出されている。

表 12. 因子尺度の「信頼性」

因子尺度 (factor-analytically derived scale)	「尺度」 を構成す る質問項 目数	「尺度」を構成する 質問項目の均質性 (homogeneity reliability)		
		工学部 (N=100)	経済学部 (N=88)	文学部 (N=86)
<b>● 学生イメージ</b>				
I. 塾生一般				
1. 洗練性	5	.79	.87	.87
2. 積極性	6	.78	.79	.76
3. 勤勉性	4	.63	.61	.78
II. 自分自身				
4. 洗練性	5	.91	.92	.93
5. 積極性	6	.82	.80	.84
6. 勤勉性	4	.67	.72	.72
<b>● 大学生生活諸活動への時間とエネルギー の配分</b>				
7. 「自己確認」活動	12	.92	.90	.89
8. 「交友・社交」活動	9	.77	.87	.77
9. 「勉学・学習」活動	7	.77	.82	.81



因子尺度 (factor-analytically derived scale)	「尺度」 を構成す る質問項 目数	「尺度」を構成する 質問項目の均質性 (homogeneity reliability)		
		工学部 (N=100)	経済学部 (N=88)	文学部 (N=86)
10. 「クラブ・課外」活動	6	.83	.85	.86
11. 「人格陶冶」活動	7	.79	.77	.82
<b>● 大学生生活上での諸問題</b>				
I. 経験頻度				
12. 「大学システム」の不備・不充実	8	.74	.73	.75
13. 「対人的ネットワーク」からの乖離	6	.56	.53	.55
14. 「大学生活」の空疎感	6	.68	.78	.69
II. 生活への障害度				
15. 「大学システム」の不備・不充実	8	.78	.79	.77
16. 「対人的ネットワーク」からの乖離	6	.79	.76	.75
17. 「大学生活」の空疎感	6	.82	.85	.81
<b>● 職業生活志向性</b>				
18. 「組織内上昇・安定」志向	6	.75	.79	.60
19. 「自己実現・自律」志向	6	.83	.70	.70
20. 「私生活優先・自由」志向	6	.51	.58	.58
<b>● 社会的価値態度</b>				
21. 「伝統的性役割」の維持	6	.66	.84	.79
22. 「社会的秩序」への従属	6	.72	.58	.53
23. 「上下関係」の重視	7	.57	.71	.61
<b>● 大学生活への満足度</b>				
24. 研究・教育システム	6	.73	.78	.73
25. 対人・交友関係	5	.75	.74	.75

- (注) 1. 因子尺度の「信頼性」(homogeneity reliability coefficient) は、Cronbach の  $\alpha$  係数によってしめされる。
2. 表中でゴシックの数値は、「信頼性」係数が .60 未満であることをしめす。

その結果、一部検討を要する尺度（表12上でゴシックでしめされる数値をもつ尺度）がみられるが、全体としてはおおむね満足すべき尺度化がなされた、といえよう。

[7]

以上の手続きをとおして得られた尺度（因子尺度および単一項目尺度）のすべてについて、利用サンプルの各人ごと、本観察（ $T^1 \sim T^4$ ）の各時点にわたって得点が算出された。この得点が、以降の諸統計分析にもちこまれる「変数」(variables)となる。

表13から表15は、各学部サンプルの、それぞれの変数の各観察時点ごとの「平均値」(mean:  $\bar{X}$ )と「標準偏差」(standard deviation S. D.)をしめたものである。

また、表16から表18は、各学部サンプルの、それぞれの変数の「時間をとおしての安定性」(stability over time)をしめている。安定性とは、逆にいえば、それぞれの観察時点のあいだでの変数の動きをみる指標であり、「スピアマンの単純相関係数」(Spearman's simple product-moment correlation)によってしめされる。

表 13. 変数の平均値 ( $\bar{X}$ ) と標準偏差 (S. D.): 工学部 (N=100)

変数	T <sup>1</sup> (入学後1年経過時)		T <sup>2</sup> (入学後2年経過時)		T <sup>3</sup> (入学後3年経過時)		T <sup>4</sup> (卒業直前)	
	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.
<b>● 学生イメージ</b>								
I. 塾生一般								
1. 洗練性	4.82	.75	4.80	.74	4.97	.75	5.13	.72
2. 積極性	3.99	.78	4.00	.84	4.17	.72	4.37	.75
3. 勤勉性	3.63	.74	3.77	.73	4.02	.75	4.20	.70
II. 自分自身								
4. 洗練性	4.26	.84	4.28	.92	4.31	.95	4.44	.89
5. 積極性	4.16	.88	4.26	.90	4.32	.82	4.58	.83
6. 勤勉性	4.14	.97	4.24	.90	4.21	.86	4.51	.95
<b>● 大学生生活諸活動への時間とエネルギーの配分</b>								
7. 「自己確認」活動	2.03	.84	2.29	.95	2.39	.85	2.74	.87
8. 「交友・社交」活動	4.07	.95	4.21	.82	4.21	.78	4.15	.99
9. 「勉学・学習」活動	3.96	.91	4.09	.96	3.27	.73	2.82	1.10
10. 「クラブ・課外」活動	3.58	1.24	3.64	1.27	3.74	1.24	3.57	.98
11. 「人格陶冶」活動	4.18	.96	4.34	.91	4.38	.87	4.50	.80
<b>● 大学生生活上での諸問題</b>								
I. 経験頻度								

変数	T <sup>1</sup> (入学後1年経過時)		T <sup>2</sup> (入学後2年経過時)		T <sup>3</sup> (入学後3年経過時)		T <sup>4</sup> (卒業直前)	
	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.
12. 「大学システム」の不備・不充実	4.37	.89	4.36	.82	4.27	.80	3.86	.93
13. 「対人的ネットワーク」からの乖離	3.41	.94	3.40	.76	3.19	.91	2.77	.91
14. 「大学生活」の空虚感	4.38	1.07	4.24	.86	4.18	.96	3.51	1.05
II. 生活への障害度								
15. 「大学システム」の不備・不充実	4.09	.94	4.00	.94	4.00	.90	3.50	1.03
16. 「対人的ネットワーク」からの乖離	3.04	.82	2.99	.95	2.85	1.05	2.44	.98
17. 「大学生活」の空虚感	4.13	1.03	4.01	1.01	4.02	1.05	3.21	1.06
● 大学卒業後のキャリア展望								
I. 魅力度								
18. 一流企業入社→社長	4.44	1.24	4.79	1.61	5.09	1.42	—	—
19. 就職せず→自由業・タレント	4.79	1.28	4.81	1.50	4.52	1.63	—	—
20. 外国留学→国際人	4.17	1.43	5.27	1.48	5.05	1.50	—	—
21. とにかく就職→サラリーマン	5.49	1.34	3.69	1.55	3.72	1.42	—	—
22. 大学院進学→研究者・スペシャリスト	5.09	1.17	5.22	1.46	5.07	1.31	—	—
23. 社会運動家	4.36	1.32	4.10	1.56	3.76	1.46	—	—
24. 家業継承→事業家	2.61	1.38	4.00	1.53	4.03	1.70	—	—
25. 官公庁→エリート官僚・政治家	3.14	1.56	3.75	1.71	3.55	1.77	—	—
II. 選択可能性								
26. 一流企業入社→社長	3.67	1.23	3.76	1.36	3.77	1.22	—	—

27.	就職せず→自由業・タレント	3.86	1.23	3.50	1.35	2.99	1.28	—	—
28.	外国留学→国際人	3.18	1.36	3.72	1.33	3.26	1.22	—	—
29.	とにかく就職→サラリーマン	4.06	1.34	4.89	1.22	4.99	1.07	—	—
30.	大学院進学→研究者・スペシャリスト	3.99	1.23	4.33	1.35	3.85	1.30	—	—
31.	社会運動家	3.35	1.27	3.20	1.39	2.87	1.39	—	—
32.	家業継承→事業家	2.53	1.46	3.40	1.36	3.44	1.54	—	—
33.	官公庁→エリート官僚・政治家	2.77	1.38	2.80	1.29	2.42	1.21	—	—

● 大学生活諸活動と卒業後キャリアとの関連

I. 諸活動の遂行可能性

34.	良い成績をおさめる	4.70	1.38	4.95	1.41	4.73	1.48	—	—
35.	クラブ・課外活動	4.82	1.50	4.97	1.53	4.75	1.65	—	—
36.	自治会活動	3.12	1.60	3.34	1.53	3.12	1.65	—	—
37.	交友・社交	5.07	1.15	5.07	1.18	5.00	1.33	—	—
38.	先生と親しく接する	3.66	1.39	4.35	1.22	4.39	1.33	—	—
39.	人格陶冶	5.28	1.18	5.38	1.26	5.32	1.17	—	—

II. 諸活動の有意味性

40.	良い成績をおさめる	4.69	1.27	4.82	1.31	4.92	1.43	—	—
41.	クラブ・課外活動	4.80	1.45	4.84	1.41	4.90	1.27	—	—
42.	自治会活動	3.27	1.29	3.28	1.36	3.06	1.44	—	—
43.	交友・社交	5.63	1.01	5.42	1.07	5.46	1.14	—	—
44.	先生と親しく接する	4.37	1.18	4.82	1.17	4.95	1.09	—	—
45.	人格陶冶	5.45	1.11	5.58	1.11	5.50	1.07	—	—

変数	T <sup>1</sup> (入学後1) (年経過時)		T <sup>2</sup> (入学後2) (年経過時)		T <sup>3</sup> (入学後3) (年経過時)		T <sup>4</sup> (卒業直前)	
	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.
Ⅲ. 諸活動の道具性								
46. 良い成績をおさめる	4.13	.84	5.12	1.33	5.11	1.31	—	—
47. クラブ・課外活動	3.82	.94	5.12	1.25	4.94	1.22	—	—
48. 自治会活動	3.37	1.06	3.49	1.39	3.27	1.33	—	—
49. 交友・社交	3.71	.95	5.28	1.11	5.32	1.17	—	—
50. 先生と親しく接する	4.08	.95	4.82	1.27	4.97	1.13	—	—
51. 人格陶冶	3.98	.97	5.31	1.18	5.18	1.27	—	—
● 職業生活志向性								
52. 「組織内上昇・安定」志向	—	—	4.14	.81	4.25	.65	4.43	.75
53. 「自己実現・自律」志向	—	—	4.47	.64	4.53	.69	4.36	.66
54. 「私生活優先・自由」志向	—	—	3.77	.63	3.57	.62	3.44	.66
● 社会的価値態度								
55. 「伝統的性役割」の維持	—	—	—	—	3.52	.63	3.53	.60
56. 「社会的秩序」への従属	—	—	—	—	3.94	.51	3.93	.48
57. 「上下関係」の重視	—	—	—	—	3.43	.46	3.37	.43
● 大学生活への同化・適合度								
58. 大学との一体感	4.28	1.10	4.30	1.31	4.46	1.29	5.00	1.17
59. 塾生らしさの増進	4.31	1.29	4.36	1.29	4.46	1.42	4.71	1.36

60. 将来へのみとおし	2.09	.75	2.32	.76	2.23	.71	2.65	.92
● 大学生活への満足度								
61. 研究・教育システム	3.27	.75	3.43	.71	3.52	.76	3.98	.83
62. 対人・交友関係	4.25	.92	4.16	.80	4.22	.78	4.46	.82

表 14. 変数の平均値 ( $\bar{X}$ ) と標準偏差 (S. D.): 経済学部 (N=88)

変数	T <sup>1</sup> (入学後1年経過時)		T <sup>2</sup> (入学後2年経過時)		T <sup>3</sup> (入学後3年経過時)		T <sup>4</sup> (卒業直前)	
	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.
<b>● 学生イメージ</b>								
I. 塾生一般								
1. 洗練性	4.90	.74	5.10	.76	5.04	.79	5.20	.84
2. 積極性	3.95	.89	4.22	.82	4.24	.76	4.41	.82
3. 勤勉性	3.61	.70	3.61	.66	3.73	.69	3.84	.85
II. 自分自身								
4. 洗練性	4.29	.88	4.28	.87	4.36	.86	4.49	.86
5. 積極性	4.30	.97	4.36	.90	4.47	.94	4.79	.96
6. 勤勉性	4.21	.99	4.43	.99	4.45	.95	4.57	.91
<b>● 大学生活諸活動への時間とエネルギーの配分</b>								
7. 「自己確認」活動	2.21	.89	2.49	.92	2.57	.84	2.40	.92
8. 「交友・社交」活動	4.14	1.13	4.26	.97	4.17	1.10	4.15	1.17
9. 「勉学・学習」活動	4.13	.99	4.09	1.07	3.36	.98	2.68	.98
10. 「クラブ・課外」活動	3.78	1.33	3.96	1.32	4.05	1.25	3.53	1.34
11. 「人格陶冶」活動	4.59	.77	4.74	.78	4.79	.78	4.85	.84
<b>● 大学生活上での諸問題</b>								
I. 経験頻度								



12. 「大学システム」の不備・不充実	4.11	.85	4.17	.84	4.10	.81	3.90	.87
13. 「対人的ネットワーク」からの乖離	3.45	.70	3.42	.73	3.44	.80	3.17	.92
14. 「大学生生活」の空疎感	4.23	.99	4.10	1.03	3.97	1.09	3.67	1.07
II. 生活への障害度								
15. 「大学システム」の不備・不充実	3.84	.91	3.82	.94	3.75	.92	3.46	1.00
16. 「対人的ネットワーク」からの乖離	2.95	.84	2.86	.89	2.77	.84	2.52	.87
17. 「大学生生活」の空疎感	3.94	1.04	3.77	1.08	3.70	1.19	3.34	1.12

● 大学卒業後のキャリア展望

I. 魅力度

18. 一流企業入社→社長	4.71	1.21	4.65	1.78	4.88	1.70	—	—
19. 就職せず→自由業・タレント	4.77	1.19	4.58	1.69	4.67	1.54	—	—
20. 外国留学→国際人	4.29	1.51	5.09	1.64	5.06	1.62	—	—
21. とにかく就職→サラリーマン	5.36	1.31	3.50	1.51	3.57	1.57	—	—
22. 大学院進学→研究者・スペシャリスト	4.63	1.23	4.28	1.70	4.09	1.84	—	—
23. 社会運動家	4.58	1.46	3.95	1.67	3.53	1.66	—	—
24. 家業継承→事業家	2.99	1.61	4.07	1.64	4.30	1.86	—	—
25. 官公庁→エリート官僚・政治家	3.56	1.66	3.70	1.81	4.18	1.81	—	—

II. 選択可能性

26. 一流企業入社→社長	3.94	1.33	4.11	1.48	3.93	1.60	—	—
27. 就職せず→自由業・タレント	3.93	1.14	3.38	1.35	3.19	1.27	—	—
28. 外国留学→国際人	3.41	1.45	3.75	1.33	3.44	1.30	—	—
29. とにかく就職→サラリーマン	4.22	1.45	4.86	1.29	4.88	1.53	—	—

変	数	T <sup>1</sup> (入学後1年経過時)		T <sup>2</sup> (入学後2年経過時)		T <sup>3</sup> (入学後3年経過時)		T <sup>4</sup> (卒業直前)	
		$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.
30.	大学院進学→研究者・スペシャリスト	3.98	1.28	3.15	1.42	2.80	1.42	—	—
31.	社会運動家	3.51	1.48	2.88	1.44	2.51	1.22	—	—
32.	家業継承→事業家	2.76	1.51	3.53	1.56	3.27	1.76	—	—
33.	官公庁→エリート官僚・政治家	2.85	1.46	3.01	1.50	2.69	1.44	—	—
<b>● 大学生活諸活動と卒業後キャリアとの関連</b>									
I. 諸活動の遂行可能性									
34.	良い成績をおさめる	4.77	1.35	4.91	1.45	4.58	1.58	—	—
35.	クラブ・課外活動	5.09	1.47	5.15	1.35	4.77	1.79	—	—
36.	自治会活動	2.58	1.44	2.97	1.59	2.59	1.59	—	—
37.	交友・社交	5.17	1.25	5.05	1.30	4.70	1.45	—	—
38.	先生と親しく接する	3.90	1.49	4.34	1.36	3.97	1.46	—	—
39.	人格陶冶	5.44	1.10	5.26	1.27	5.36	1.11	—	—
II. 諸活動の有意味性									
40.	良い成績をおさめる	4.74	1.53	4.82	1.47	5.19	1.44	—	—
41.	クラブ・課外活動	5.16	1.36	4.99	1.41	4.93	1.50	—	—
42.	自治会活動	2.84	1.33	2.93	1.57	2.65	1.60	—	—
43.	交友・社交	5.69	1.15	5.60	1.06	5.34	1.13	—	—
44.	先生と親しく接する	4.57	1.47	5.00	1.17	5.06	1.29	—	—

45. 人格陶冶	5.66	1.10	5.58	1.00	5.60	1.09	—	—
Ⅲ. 諸活動の道具性								
46. 良い成績をおさめる	4.18	.97	4.99	1.34	5.09	1.48	—	—
47. クラブ・課外活動	3.80	.92	4.99	1.29	4.97	1.39	—	—
48. 自治会活動	3.08	1.08	3.23	1.54	2.84	1.55	—	—
49. 交友・社交	3.61	1.05	5.44	.99	5.31	1.28	—	—
50. 先生と親しく接する	4.03	.99	4.95	1.22	4.92	1.35	—	—
51. 人格陶冶	4.07	.93	5.27	1.17	5.26	1.34	—	—

● 職業生活志向性

52. 「組織内上昇・安定」志向	—	—	4.12	.92	4.32	.81	4.53	.83
53. 「自己実現・自律」志向	—	—	4.58	.75	4.44	.78	4.59	.80
54. 「私生活優先・自由」志向	—	—	3.70	.68	3.62	.81	3.41	.89

● 社会的価値態度

55. 「伝統的性役割」の維持	—	—	—	—	3.43	.82	3.51	.87
56. 「社会的秩序」への従属	—	—	—	—	3.84	.47	4.01	.44
57. 「上下関係」の重視	—	—	—	—	3.47	.57	3.53	.53

● 「大学生活への同化・適合度

58. 大学との一体感	4.34	1.27	4.43	1.34	4.59	1.27	5.09	1.25
59. 塾生らしさの増進	4.25	1.28	4.53	1.42	4.57	1.48	4.81	1.48
60. 将来へのみとおし	2.11	.83	2.26	.79	2.39	.73	2.64	.88

変 数	T <sup>1</sup> (入学後1) (年経過時)		T <sup>2</sup> (入学後2) (年経過時)		T <sup>3</sup> (入学後3) (年経過時)		T <sup>4</sup> (卒業直前)	
	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.
● 大学生活への満足度								
61. 研究・教育システム	3.35	.80	3.42	.76	3.58	.80	3.88	.93
62. 対人・交友関係	4.14	.90	4.26	.77	4.46	.90	4.75	.98

表 15. 変数の平均値 ( $\bar{X}$ ) と標準偏差 (S. D.): 文学部 (N=86)

変数	T <sup>1</sup> (入学後1年経過時)		T <sup>2</sup> (入学後2年経過時)		T <sup>3</sup> (入学後3年経過時)		T <sup>3</sup> (卒業直前)	
	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.
<b>● 学生イメージ</b>								
I. 塾生一般								
1. 洗練性	5.03	.74	5.17	.85	5.08	.84	5.23	.80
2. 積極性	3.84	.77	4.11	.82	4.20	.92	4.35	.89
3. 勤勉性	3.47	.77	3.64	.88	3.78	.79	3.84	.79
II. 自分自身								
4. 洗練性	4.09	.75	4.13	.91	4.26	.84	4.36	.81
5. 積極性	3.88	.85	4.08	.95	4.14	.88	4.31	.97
6. 勤勉性	3.74	.97	4.01	.97	4.10	1.16	4.24	1.06
<b>● 大学生活諸活動への時間とエネルギーの配分</b>								
7. 「自己確認」活動	1.75	.74	1.90	.82	1.92	.86	1.99	.84
8. 「交友・社交」活動	4.07	.90	3.85	.89	3.76	.93	3.94	.90
9. 「勉学・学習」活動	3.67	.89	4.10	1.02	3.38	1.12	3.14	1.06
10. 「クラブ・課外」活動	3.60	1.32	3.34	1.38	3.16	1.20	2.86	1.29
11. 「人格陶冶」活動	4.23	.96	4.30	.91	4.43	.85	4.64	.92
<b>● 大学生活上での諸問題</b>								
I. 経験頻度								

変数	T <sup>1</sup> (入学後1年経過時)		T <sup>2</sup> (入学後2年経過時)		T <sup>3</sup> (入学後3年経過時)		T <sup>4</sup> (卒業直前)	
	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.
12. 「大学システム」の不備・不充実	4.06	.89	4.08	.91	4.02	.82	3.90	.88
13. 「対人的ネットワーク」からの乖離	3.57	.83	3.62	.81	3.49	.92	3.23	.93
14. 「大学生活」の空虚感	4.29	.95	4.13	.95	4.13	.98	3.90	1.12
II. 生活への障害度								
15. 「大学システム」の不備・不充実	3.77	.94	3.60	.97	3.57	.89	3.35	1.00
16. 「対人的ネットワーク」からの乖離	2.94	.80	2.83	.94	2.75	1.00	2.46	.93
17. 「大学生活」の空虚感	4.03	1.04	3.85	1.04	3.76	1.02	3.44	1.18
● 大学卒業後のキャリア展望								
I. 魅力度								
18. 一流企業入社→社長	3.26	1.28	2.86	1.69	3.19	1.82	—	—
19. 就職せず→自由業・タレント	5.15	1.27	5.10	1.71	5.30	1.71	—	—
20. 外国留学→国際人	4.63	1.47	5.41	1.46	5.31	1.53	—	—
21. とにかく就職→サラリーマン	5.45	1.34	3.16	1.48	3.49	1.58	—	—
22. 大学院進学→研究者・スペシャリスト	4.58	1.40	4.58	1.87	4.21	1.93	—	—
23. 社会運動家	4.10	1.80	3.97	1.81	3.87	1.78	—	—
24. 家業継承→事業家	1.97	1.35	3.27	1.68	3.37	1.68	—	—
25. 官公庁→エリート官僚・政治家	2.53	1.71	2.65	1.54	2.88	1.73	—	—
II. 選択可能性								

26.	一流企業入社→社長	2.73	1.36	2.15	1.23	1.93	1.16	—	—
27.	就職せず→自由業・タレント	4.16	1.19	3.37	1.49	3.10	1.55	—	—
28.	外国留学→国際人	3.35	1.41	3.27	1.48	3.02	1.52	—	—
29.	とにかく就職→サラリーマン	3.37	1.56	4.42	1.33	4.43	1.60	—	—
30.	大学院進学→研究者・スペシャリスト	3.39	1.46	2.91	1.55	2.60	1.51	—	—
31.	社会運動家	2.94	1.42	2.58	1.43	2.42	1.35	—	—
32.	家業継承→事業家	2.00	1.31	2.47	1.50	2.30	1.36	—	—
33.	官公庁→エリート官僚・政治家	2.27	1.49	1.83	1.07	1.78	1.00	—	—

● 大学生活諸活動と卒業後キャリアとの関連

I. 諸活動の遂行可能性

34.	良い成績をおさめる	4.36	1.63	4.70	1.59	4.79	1.47	—	—
35.	クラブ・課外活動	4.94	1.44	4.74	1.75	4.56	1.76	—	—
36.	自治会活動	2.70	1.41	3.01	1.69	2.70	1.61	—	—
37.	交友・社交	5.10	1.01	4.86	1.41	4.93	1.41	—	—
38.	先生と親しく接する	3.13	1.42	3.81	1.54	3.84	1.57	—	—
39.	人格陶冶	5.43	1.01	5.80	.83	5.77	1.05	—	—

II. 諸活動の有意味性

40.	良い成績をおさめる	4.51	1.48	4.40	1.51	4.41	1.56	—	—
41.	クラブ・課外活動	5.10	1.15	4.83	1.53	4.49	1.60	—	—
42.	自治会活動	3.26	1.53	3.16	1.58	2.80	1.54	—	—
43.	交友・社交	5.94	.93	5.44	1.07	5.55	1.12	—	—
44.	先生と親しく接する	4.07	1.47	4.62	1.50	4.71	1.49	—	—

変数	T <sup>1</sup> (入学後1年経過時)		T <sup>2</sup> (入学後2年経過時)		T <sup>3</sup> (入学後3年経過時)		T <sup>4</sup> (卒業直前)	
	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.	$\bar{X}$	S. D.
45. 人格陶冶	6.08	.81	6.16	.79	6.15	.76	—	—
III. 諸活動の道具性								
46. 良い成績をおさめる	4.13	.93	4.77	1.51	4.72	1.48	—	—
47. クラブ・課外活動	3.74	.97	4.93	1.29	4.72	1.37	—	—
48. 自治会活動	3.35	1.03	3.12	1.47	2.97	1.54	—	—
49. 交友・社交	3.63	1.07	5.40	1.00	5.49	1.04	—	—
50. 先生と親しく接する	3.91	1.03	4.87	1.61	4.69	1.35	—	—
51. 人格陶冶	4.13	1.10	6.06	1.00	5.93	1.04	—	—
● 職業生活志向性								
52. 「組織内上昇・安定」志向	—	—	3.85	.77	3.87	.71	3.97	.73
53. 「自己実現・自律」志向	—	—	4.66	.70	4.70	.74	4.68	.76
54. 「私生活優先・自由」志向	—	—	3.77	.69	3.72	.66	3.49	.63
● 社会的価値態度								
55. 「伝統的性役割」の維持	—	—	—	—	3.13	.80	3.10	.82
56. 「社会的秩序」への従属	—	—	—	—	3.93	.45	3.98	.37
57. 「上下関係」の重視	—	—	—	—	3.53	.50	3.51	.45
● 大学生活への同化・適合度								
58. 大学との一体感	4.06	1.24	4.14	1.14	4.47	1.19	4.69	1.34



59. 塾生らしさの増進	4.07	1.40	4.30	1.20	4.29	1.31	4.64	1.17
60. 将来へのみとおし	1.98	.79	2.13	.70	2.14	.68	2.33	.91
● 大学生活への満足度								
61. 研究・教育システム	3.42	.62	3.54	.71	3.52	.72	3.76	.76
62. 対人・交友関係	4.22	.83	4.07	.81	4.17	.75	4.52	.80

表 16. 変数の「安定性」：工学部 (N=100)

変数	相 関 係 数							
	T <sup>1</sup> とT <sup>2</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>
● 学生イメージ								
I. 塾生一般								
1. 洗練性	.39	.46	.43	.51	.48	.61		
2. 積極性	.54	.46	.35	.56	.42	.53		
3. 勤勉性	.49	.45	.45	.55	.42	.53		
II. 自分自身								
4. 洗練性	.69	.57	.64	.67	.69	.67		
5. 積極性	.64	.58	.51	.64	.54	.55		
6. 勤勉性	.48	.54	.50	.58	.55	.63		
● 大学生生活諸活動への時間とエネルギーの配分								
7. 「自己確認」活動	.56	.52	.47	.57	.61	.62		
8. 「交友・社交」活動	.61	.45	.46	.51	.56	.60		
9. 「勉学・学習」活動	.58	.28	.15	.38	.29	.39		
10. 「クラブ・課外」活動	.68	.56	.49	.70	.58	.54		
11. 「人格陶冶」活動	.61	.54	.62	.58	.62	.63		
● 大学生活上での諸問題								
I. 経験頻度								

12. 「大学システム」の不備・不充実	.65	.58	.53	.60	.49	.63
13. 「対人的ネットワーク」からの乖離	.50	.59	.35	.52	.45	.51
14. 「大学生生活」の空疎感	.71	.58	.49	.53	.49	.49
II. 生活への障害度						
15. 「大学システム」の不備・不充実	.49	.36	.45	.54	.48	.55
16. 「対人的ネットワーク」からの乖離	.31	.29	.33	.58	.59	.53
17. 「大学生生活」の空疎感	.65	.46	.33	.45	.34	.38

● 大学卒業後のキャリア展望

I. 魅力度

18. 一流企業入社→社長	.65	.44	—	.47	—	—
19. 就職せず→自由業・タレント	.28	.08	—	.28	—	—
20. 外国留学→国際人	.46	.45	—	.48	—	—
21. とにかく就職→サラリーマン	.33	.22	—	.52	—	—
22. 大学院進学→研究者・スペシャリスト	.33	.11	—	.44	—	—
23. 社会運動家	.03	.10	—	.45	—	—
24. 家業継承→事業家	.41	.28	—	.41	—	—
25. 官公庁→エリート官僚・政治家	.45	.34	—	.40	—	—

II. 選択可能性

26. 一流企業入社→社長	.26	.28	—	.45	—	—
27. 就職せず→自由業・タレント	.14	.21	—	.32	—	—
28. 外国留学→国際人	.20	.26	—	.49	—	—
29. とにかく就職→サラリーマン	.16	.14	—	.37	—	—

変数	相関係数							
	T <sup>1</sup> とT <sup>2</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>
30. 大学院進学→研究者・スペシャリスト	.30	.30	—	.37	—	—	—	—
31. 社会運動家	.24	.14	—	.48	—	—	—	—
32. 家業継承→事業家	.08	.11	—	.38	—	—	—	—
33. 官公庁→エリート官僚・政治家	.18	.19	—	.30	—	—	—	—
<b>● 大学生活諸活動と卒業後キャリアとの関連</b>								
I. 諸活動の遂行可能性								
34. 良い成績をおさめる	.53	.37	—	.59	—	—	—	—
35. クラブ・課外活動	.45	.33	—	.57	—	—	—	—
36. 自治会活動	.39	.33	—	.27	—	—	—	—
37. 交友・社交	.17	.31	—	.24	—	—	—	—
38. 先生と親しく接する	.40	.17	—	.35	—	—	—	—
39. 人格陶冶	.51	.43	—	.56	—	—	—	—
II. 諸活動の有意味性								
40. 良い成績をおさめる	.25	.02	—	.50	—	—	—	—
41. クラブ・課外活動	.44	.23	—	.35	—	—	—	—
42. 自治会活動	.44	.28	—	.29	—	—	—	—
43. 交友・社交	.38	.18	—	.15	—	—	—	—
44. 先生と親しく接する	.34	.07	—	.17	—	—	—	—

45. 人格陶冶	.55	.29	—	.38	—	—
Ⅲ. 諸活動の道具性						
46. 良い成績をおさめる	.17	.08	—	.60	—	—
47. クラブ・課外活動	.23	.23	—	.42	—	—
48. 自治会活動	.29	.29	—	.38	—	—
49. 交友・社交	.35	.24	—	.46	—	—
50. 先生と親しく接する	.26	.11	—	.36	—	—
51. 人格陶冶	.29	.25	—	.58	—	—

● 職業生活志向性

52. 「組織内上昇・安定」志向	—	—	—	.60	.39	.52
53. 「自己実現・自律」志向	—	—	—	.55	.37	.46
54. 「私生活優先・自由」志向	—	—	—	.45	.43	.51

● 社会的価値態度

55. 「伝統的性役割」の維持	—	—	—	—	—	.65
56. 「社会的秩序」への従属	—	—	—	—	—	.36
57. 「上下関係」の重視	—	—	—	—	—	.42

● 大学生活への同化・適合度

58. 大学との一体感	.38	.47	.28	.47	.44	.57
59. 塾生らしさの増進	.52	.61	.54	.61	.66	.64
60. 将来へのみとおし	.27	.38	.19	.31	.27	.34

変数	相関係数			
	T <sup>1</sup> とT <sup>2</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>3</sup>
● 大学生生活への満足度				
61. 研究・教育システム	.57	.55	.39	.60
62. 対人・交友関係	.53	.49	.38	.59

表 17. 変数の「安定性」：経済学部 (N=88)

変 数	相 関 係 数			
	T <sup>1</sup> とT <sup>2</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>3</sup> T <sup>2</sup> とT <sup>4</sup> T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>
● 学生イメージ				
I. 塾生一般				
1. 洗練性	.56	.58	.49	.56 .64 .69
2. 積極性	.62	.50	.48	.63 .60 .65
3. 勤勉性	.58	.30	.31	.48 .38 .52
II. 自分自身				
4. 洗練性	.54	.65	.66	.72 .50 .69
5. 積極性	.41	.59	.51	.67 .53 .65
6. 勤勉性	.46	.61	.48	.38 .26 .60
● 大学生活諸活動への時間とエネルギーの配分				
7. 「自己確認」活動	.72	.59	.43	.65 .49 .75
8. 「交友・社交」活動	.76	.68	.68	.85 .70 .74
9. 「勉強・学習」活動	.74	.49	.36	.50 .47 .64
10. 「クラブ・課外」活動	.75	.67	.60	.77 .72 .76
11. 「人格陶冶」活動	.56	.42	.34	.57 .55 .52

● 大学生生活上での諸問題

I. 経験頻度

変数	相関係数			
	T <sup>1</sup> とT <sup>2</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>3</sup> T <sup>2</sup> とT <sup>4</sup> T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>
12. 「大学システム」の不備・不充実	.57	.54	.64	.60 .61 .68
13. 「対人的ネットワーク」からの乖離	.45	.41	.38	.57 .37 .58
14. 「大学生生活」の空疎感	.44	.44	.41	.64 .48 .62
II. 生活への障害度				
15. 「大学システム」の不備・不充実	.54	.55	.69	.64 .53 .71
16. 「対人的ネットワーク」からの乖離	.49	.41	.40	.63 .47 .63
17. 「大学生生活」の空疎感	.39	.43	.45	.58 .47 .64
● 大学卒業後のキャリア展望				
I. 魅力度				
18. 一流企業入社→社長	.52	.63	—	.67 — —
19. 就職せず→自由業・タレント	.27	.37	—	.53 — —
20. 外国留学→国際人	.62	.49	—	.66 — —
21. とにかく就職→サラリーマン	.27	.23	—	.48 — —
22. 大学院進学→研究者・スペシャリスト	.48	.45	—	.64 — —
23. 社会運動家	.32	.03	—	.46 — —
24. 家業継承→事業家	.20	.29	—	.34 — —
25. 官公庁→エリート官僚・政治家	.28	.37	—	.47 — —
II. 選択可能性				



26. 一流企業入社→社長	.33	.37	—	.51	—
27. 就職せず→自由業・タレント	.33	.25	—	.40	—
28. 外国留学→国際人	.53	.29	—	.68	—
29. とにかく就職→サラリーマン	.08	.11	—	.38	—
30. 大学院進学→研究者・スペシャリスト	.41	.42	—	.59	—
31. 社会運動家	.32	.17	—	.48	—
32. 家業継承→事業家	.19	.36	—	.42	—
33. 官公庁→エリート官僚・政治家	.29	.24	—	.43	—

● 大学生活諸活動と卒業後キャリアとの関連

I. 諸活動の遂行可能性

34. 良い成績をおさめる	.48	.31	—	.46	—
35. クラブ・課外活動	.45	.57	—	.60	—
36. 自治会活動	.48	.31	—	.54	—
37. 交友・社交	.43	.59	—	.43	—
38. 先生と親しく接する	.39	.39	—	.42	—
39. 人格陶冶	.40	.14	—	.46	—

II. 諸活動の有意味性

40. 良い成績をおさめる	.40	.49	—	.48	—
41. クラブ・課外活動	.48	.44	—	.46	—
42. 自治会活動	.54	.42	—	.60	—
43. 交友・社交	.44	.50	—	.40	—
44. 先生と親しく接する	.42	.34	—	.43	—

変数	相関係数							
	T <sup>1</sup> とT <sup>2</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>
45. 人格陶冶	.25	.23	—	.31	—	—	—	—
Ⅲ. 諸活動の道具性								
46. 良い成績をおさめる	.36	.43	—	.32	—	—	—	—
47. クラブ・課外活動	.12	.16	—	.46	—	—	—	—
48. 自治会活動	.28	.27	—	.57	—	—	—	—
49. 交友・社交	.18	.24	—	.40	—	—	—	—
50. 先生と親しく接する	.37	.47	—	.53	—	—	—	—
51. 人格陶冶	.01	.02	—	.45	—	—	—	—
● 職業生活志向性								
52. 「組織内上昇・安定」志向	—	—	—	.53	.53	.64	.63	.51
53. 「自己実現・自律」志向	—	—	—	.41	.39	.43	.43	.43
54. 「私生活優先・自由」志向	—	—	—	.46	.46	.46	.46	.46
● 社会的価値態度								
55. 「伝統的性役割」の維持	—	—	—	—	—	—	—	.76
56. 「社会的秩序」への従属	—	—	—	—	—	—	—	.54
57. 「上下関係」の重視	—	—	—	—	—	—	—	.65
● 大学生活への同化・適合度								
58. 大学との一体感	.60	.56	.50	.61	.45	.55	.55	.55

59. 塾生らしさの増進	.62	.57	.54	.72	.68	.72
60. 将来へのみとおし	.28	.15	.13	.57	.20	.34

● 大学生活への満足度

61. 研究・教育システム	.55	.38	.42	.62	.58	.70
62. 対人・交友関係	.40	.41	.25	.58	.56	.64

表 18. 変数の「安定性」：文学部 (N=86)

変数	相 関 係 数			
	T <sup>1</sup> とT <sup>2</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>3</sup> T <sup>2</sup> とT <sup>4</sup> T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>
● 学生イメージ				
I. 塾生一般				
1. 洗練性	.64	.51	.58	.63 .62 .65
2. 積極性	.45	.49	.51	.64 .61 .67
3. 勤勉性	.56	.48	.48	.64 .62 .62
II. 自分自身				
4. 洗練性	.52	.50	.50	.63 .66 .76
5. 積極性	.69	.49	.41	.67 .57 .66
6. 勤勉性	.68	.50	.50	.59 .67 .60
● 大学生生活諸活動への時間とエネルギーの配分				
7. 「自己確認」活動	.67	.67	.67	.68 .64 .81
8. 「交友・社交」活動	.46	.46	.35	.65 .57 .65
9. 「勉学・学習」活動	.56	.43	.37	.69 .54 .70
10. 「クラブ・課外」活動	.70	.70	.60	.74 .64 .80
11. 「人格陶冶」活動	.73	.64	.67	.77 .69 .69
● 大学生生活上での諸問題				
I. 経験頻度				

12. 「大学システム」の不備・不充実	.71	.70	.65	.76	.71	.72
13. 「対人的ネットワーク」からの乖離	.58	.46	.35	.68	.63	.59
14. 「大学生生活」の空疎感	.61	.55	.49	.70	.58	.69
II. 生活への障害度						
15. 「大学システム」の不備・不充実	.67	.65	.60	.76	.58	.65
16. 「対人的ネットワーク」からの乖離	.52	.46	.42	.69	.60	.70
17. 「大学生生活」の空疎感	.51	.43	.40	.64	.58	.69

●『大学卒業後のキャリア展望』

I. 魅力度

18. 一流企業入社→社長	.47	.36	—	.33	—	—
19. 就職せず→自由業・タレント	.29	.23	—	.35	—	—
20. 外国留学→国際人	.28	.32	—	.56	—	—
21. とにかく就職→サラリーマン	.28	.12	—	.43	—	—
22. 大学院進学→研究者・スペシャリスト	.54	.25	—	.64	—	—
23. 社会運動家	.29	.29	—	.55	—	—
24. 家業継承→事業家	.13	.22	—	.43	—	—
25. 官公庁→エリート官僚・政治家	.41	.44	—	.51	—	—

II. 選択可能性

26. 一流企業入社→社長	.21	.12	—	.26	—	—
27. 就職せず→自由業・タレント	.18	.05	—	.61	—	—
28. 外国留学→国際人	.56	.51	—	.66	—	—
29. とにかく就職→サラリーマン	.06	.13	—	.46	—	—

変数	相関係数							
	T <sup>1</sup> とT <sup>2</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>3</sup> とT <sup>4</sup>
30. 大学院進学→研究者・スペシャリスト	.53	.40	—	.63	—	—	—	—
31. 社会運動家	.26	.18	—	.43	—	—	—	—
32. 家業継承→事業家	.43	.28	—	.44	—	—	—	—
33. 官公庁→エリート官僚・政治家	.39	.33	—	.43	—	—	—	—
<b>● 大学生生活諸活動と卒業後キャリアとの関連</b>								
I. 諸活動の遂行可能性								
34. 良い成績をおさめる	.38	.16	—	.54	—	—	—	—
35. クラブ・課外活動	.44	.34	—	.56	—	—	—	—
36. 自治会活動	.53	.40	—	.42	—	—	—	—
37. 交友・社交	.35	.44	—	.59	—	—	—	—
38. 先生と親しく接する	.38	.34	—	.34	—	—	—	—
39. 人格陶冶	.42	.48	—	.56	—	—	—	—
II. 諸活動の有意味性								
40. 良い成績をおさめる	.33	.45	—	.48	—	—	—	—
41. クラブ・課外活動	.20	.32	—	.53	—	—	—	—
42. 自治会活動	.50	.32	—	.24	—	—	—	—
43. 交友・社交	.28	.33	—	.29	—	—	—	—
44. 先生と親しく接する	.59	.49	—	.53	—	—	—	—

45. 人格陶冶	.31	.34	—	.37	—	—
Ⅲ. 諸活動の道具性						
46. 良い成績をおさめる	.29	.30	—	.51	—	—
47. クラブ・課外活動	—	—	—	.46	—	—
48. 自治会活動	.20	.33	—	.33	—	—
49. 交友・社交	—	—	—	.35	—	—
50. 先生と親しく接する	.22	.20	—	.63	—	—
51. 人格陶冶	.33	.26	—	.51	—	—
<b>●職業生活志向性</b>						
52. 「組織内上昇・安定」志向	—	—	—	.59	.55	.64
53. 「自己実現・自律」志向	—	—	—	.62	.46	.37
54. 「私生活優先・自由」志向	—	—	—	.55	.36	.39
<b>●社会的価値態度</b>						
55. 「伝統的性役割」の維持	—	—	—	—	—	.74
56. 「社会的秩序」への従属	—	—	—	—	—	.43
57. 「上下関係」の重視	—	—	—	—	—	.58
<b>●大学生活への同化・適合度</b>						
58. 大学との一体感	.58	.50	.40	.50	.45	.69
59. 塾生らしさの増進	.46	.40	.31	.53	.45	.70
60. 将来へのみとおし	.30	.20	.14	.52	.45	.38

変数	相関係数			
	T <sup>1</sup> とT <sup>2</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>3</sup>	T <sup>1</sup> とT <sup>4</sup>	T <sup>2</sup> とT <sup>4</sup>
● 大学生活への満足度				
61. 研究・教育システム	.48	.44	.27	.54
62. 対人・交友関係	.48	.44	.36	.62



## 〔 8 〕

以上、『大学組織における学生の〈自我同一性確立過程〉の長期的追跡研究』とわたしたちが呼ぶところの研究プロジェクトで収集した資料の総合的継時分析にむけて、必要な資料整備の作業とその結果を報告した。

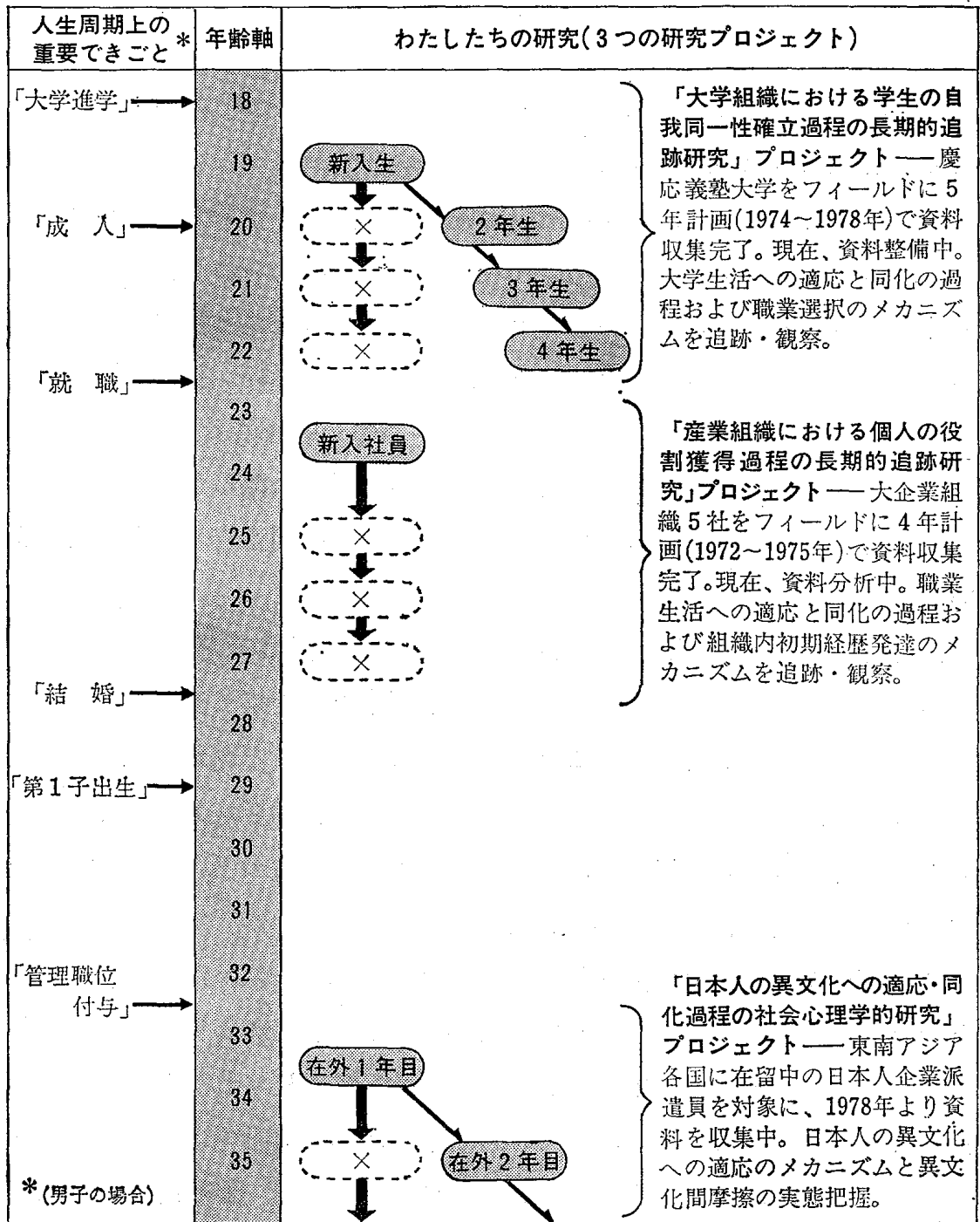
これにひきつづく「継時分析」そのものからは、いかなる結果が得られてくるだろうか。人間の一生涯をとおしての行動の発達と変化のありようおよびそのメカニズム (Baltes, 1978; Baltes & Schaie, 1973; Datan & Reese, 1977; Datan & Ginsberg, 1975; Nesselroade & Peese, 1972; Newman & Newman, 1979) を理解したいと願うわたしたちの問題関心を図1と以下の引用によって代弁させて、今回の中間報告のまとめとしたい。

『行動科学者は、人間の幼少期行動を徹底的な精密さで調べあげている。このため、普通の幼児が、何歳になったら親指と人指指で立方体をつまみあげる能力を持つかといったことを週単位の正確さでわれわれは知り得ようになったし、幼児期以降の個性発達に両親の行動が重大な関係を持つことも理解するに至っている。また学校における児童の学習過程を対象とする実験は数え切れぬほど行われている。

このように、人生の準備期間に関する限りわれわれは、かなり多くのことを知っているが、高校あるいは大学を出た後に来る“実務遂行期”(performance period) とでも呼ぶべき期間となると、われわれの知識はたちまち底をついてしまう。こうした状態を評して心理学者のロバート・W・ホワイトは、以前その名著『Lives in Progress』(1952年)の中で次のように述べている。

「個性に関し、われわれが知るところは多いとはいふものの、問題の核心には重大なギャップが存在する。自然環境を貫流する前向きの流れである個人の生活が科学的に吟味されたことは従来ほとんどなかったし、

大学組織における学生の自我同一性確立過程



(注) は、「横断的研究」の成り立つことを意味し、  
 は、「継時的研究」の成り立つことを意味する。

図 1. 3つの研究プロジェクト問題関心

われわれの現在の知識のなかにもそれはいうに値するほどの地位を占めていない」

大学を含めた人生のための準備教育機関がその生産物である個人の卒業後の生活にこれほどわずかの興味しか示さないのは驚くべきこととってよいであろう。確かに、各教育機関は、卒業生が適当な就職先を見出し得るか否かについては、ある程度関心を抱いている。しかし、学窓を巣立った者がその後の人生においてどの程度の成功を取めつつあるか、幸福なのか、それとも疎外感に悩まされているか、社会にどのように貢献しているか、知的成長を続けつつあるかといった問題は、あまり深く追求されていないのが実状である。

恐らく、その原因の一端は、卒業生の成人生活を追跡調査する作業の困難性にあると思われる。地理的にも職業的にもちりぢりに社会の中に散開していく若い人々の軌跡を絶えずトレースすることはいうに及ばず、卒業後数年を経た時点で全員の所在を確認することすら容易な仕事ではない。その上、幸福や成功や社会への貢献度などを評価するにはどのような基準を用いるべきか、という問題がある。かりにそうした評価基準について一応の合意が成立したとしても、具体的データの収集には卒業生側の少なからぬ協力が必要となるが、そのような協力を得ることはしばしば困難である。以上が、卒業後の若い人々に関する長期追跡調査がこれまで皆無に近かったことを説明する（正当化するものではないが）背景要因のいくつかである。』(Bray, Campbell, & Grant, 1974; 最上訳, 1974, pp. 1-2.)

#### 参 考 文 献

- Baltes, P. B. (Ed.) *Life-span development and behavior*. New York: Academic Press, 1978.
- Baltes, P. B., & Schaie, K. W. (Eds.) *Life-span developmental Psychology*. New York: Academic Press, 1973.
- Bray, D. W., Campbell, R. J., & Grant, D. L. *Formative years in business: A long-term AT&T study of managerial lives*. New York: John-wiley,

大学組織における学生の自我同一性確立過程

1974. 最上潤(訳)『企業は人をどう変えるか——AT & T社の能力評価・開発システム〈アセスメント・センター〉方式の長期的運営記録——』ダイヤモンドタイム社, 1974.
- Datan, N., & Reese, H. W. (Eds.) *Life-span developmental psychology: Dialectical perspective on experimental research*. New York: Academic Press, 1977.
- Datan, N., & Ginsberg, L. (Eds.) *Life-span developmental psychology: Normative life crises*. New York: Academic Press, 1975.
- Harman, H. H. *Modern factor analysis*. Chicago, Illinois: University of Chicago Press, 1975.
- 南 隆男ほか わが国大学組織における学生の「自我同一性確立過程」の長期的追跡研究——予備報告1: 産業組織におけるリーダーの「社会化システム」としての大学組織——. *組織行動研究*, 1977, 1, 7-38.
- Nesselroade, J. R., & Reese, H. W. (Eds.) *Life-span developmental psychology: Methodological issues*. New York: Academic Press, 1972.
- Newman, B. M., & Newman, P. R. *Development through life: A psychological approach*. Homewood, Illinois: Irwin-Dorsey, 1979.
- Wakabayashi, M., et. al. Japanese private university as a socialization system for future leaders in business and industry. *International Journal of Intercultural Relations*, 1977, 1, 60-80.